

全国からいただいた「ふるさと納税」は

市の将来のため大切に活用しています

商工・企業立地課商工観光係 ☎72・2111

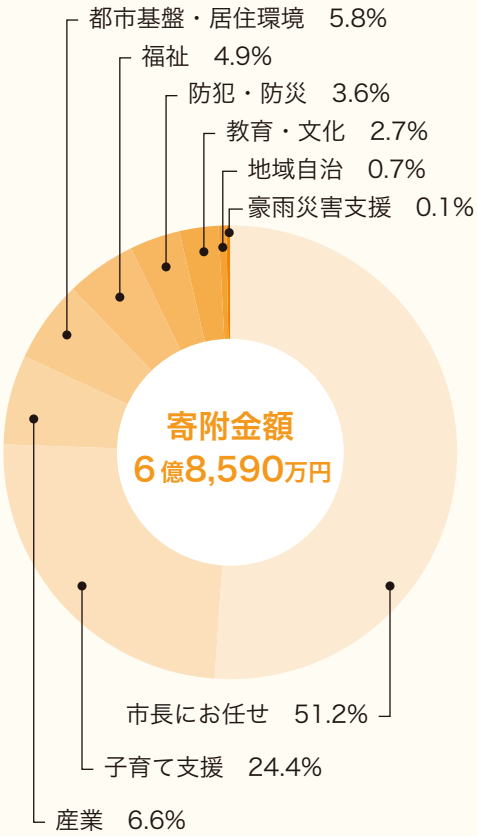
ふるさと納税は、自分の出身地などを寄附で応援できる制度です。寄附金のうち一定の金額は、所得税からの還付や住民税からの控除を受けられます。

寄附を受け取った自治体は、お礼の気持ちとして返礼品を送ることが出来ます。地元の特産品などを知ってもらふ機会にもなるため、地域のファンづくりにもつながると期待されています。

また、寄附者は、自分の寄附金をどのような事業に使ってほしいかを選ぶことができます。

令和2年度に小郡市に集まったふるさと納税は、6億8,590万円。市は、寄附者が希望した使い道を尊重しながら、寄附金を市の将来のために活用しています。私たちの身近なところで役立っているふるさと納税。その一例を紹介いたします。

令和2年度に寄附者が選んだ使い道



ふるさと納税活用のひとつ

「地域エスコートプログラム」を紹介します

商工・企業立地課商工観光係 ☎72・2111

「地域エスコートプログラム」とは

平成30年度から令和2年度まで、小郡市が主催した講座です。空き家を活用したまちづくりの専門家である「一般社団法人リノベーションまちづくりセンター」をアドバイザーに迎え、空き家の活用方法を講義。空き家を生かしたまちの賑わいづくりに取り組みました。



先進事例の視察



アイデア出し



DIYで改修



After

Before

この空き家が
リノベーションで変身!

「地域エスコートプログラム」から

新たな取組が始まりました！

「地域エスコートプログラム」の参加者を中心としたメンバーが、今年シェアスペース「ここ。」を開設。メンバーの皆さんにインタビューしました。

講座に参加した

きっかけは

もともとメンバーのうち3人が、市の「おうち起業応援講座」を受講し、スキルを生かして事業を始めたいと考えていました。ただ、条件に合う物件が見つからず、起業のハードルの高さを感じていました。

そんな中、この講座で空き家を活用した事業展開を学べると聞いて、参加を決めました。



小田さん
(テイクアウト販売)

木村さん
(親子教室)

緒方さん
(グラフィックデザイナー)

講座で 印象的だったことは

先進事例を見学する中で、複数人で場所を共有して使う「シェアスペース」という手法を知りました。物件を一人で管理するのは負担が大きいため、自分たちに合った方法が見つかって、一気に開業が現実的になりました。

現在は新型コロナウイルスの影響で利用を制限していますが、将来は一般の人が利用できる予約制のシェアスペースとしても「ここ。」を開放したいと考えています。

シェアスペースここ。
愛称は「ここまる」です。



中村さん
(ヨガ教室)

南さん
(カメラマン)

「ふるさと納税について、どのようなイメージを持っていましたか」

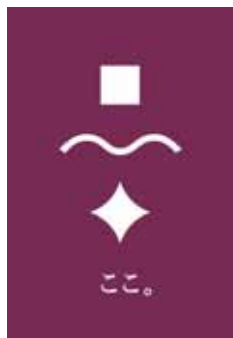
自分が他市町村にふるさと納税をすることはあっても、小郡市への寄附金が自分たちの身近なところで使われているとは想像していませんでした。

「ここ。」だけでなく、小郡市で暮らすみんなが豊かになるように役立ててほしいです。

「「ここ。」は、どのような存在でありたいですか」

毎週お惣菜を買いに来ていた人が、2週間ほど来なかったことがありました。心配していたところ、「いつも歩いて来ているので、夏場は暑くて…」とのこと。お元氣だったことに安心しました。家主さんや近所の人などに助けられて開業した「ここ。」ですが、地域の一員として今後の役割を実感した瞬間でした。

「ここ。」には、「ここから始める」ことで安らぐといった意味を込めています。新たな一歩を踏み出したとき、ほっとできる居場所が欲しいときに、気持ちに寄り添える場でありたいです。



シェアスペース「ここ。」

- 小郡市小郡248-1
- <https://coco-ogori.com>



Instagram



開放感のある

明るい空間でお待ちしています！